平成27年10月１日発行

東北大学正門(片平)

第 19 号

会　報

東北大学教育学部
同窓会仙台支部

教育学研究科・教育学部の改革構想

教育学研究科長・教育学部長　高　橋　　満

新たに研究科長・学部長に就任しました。就任早々、大きな課題となっているのが、教育研究組織の改革です。

ご承知のように、文科省は、社会的要請をふまえ人文社会科学の廃止を含めた教育研究組織の再編をすすめるようにとの通知をだしています。タイミングとしては、非常に厳しい状況のなかで改革をすすめなければなりません。研究科・学部の伝統をふまえ、その継承とともに、より魅力的な組織をつくることが求められています。

改革では、以下の３つの方向をふまえ、概算要求に向け、現在検討をすすめています。

第１に、教育情報学研究部との組織統合です。「研究部」はもともと教育学部内にあった大学教育開放センターを発展的に解消しつくった組織です。統合により、ICT教育など新しい教育研究領域を開拓します。

第２に、「グローバルリーダー育成のための教育改革」です。アジア共同学位開発プログラムの一環として、昨年から「アジア教育リーダーコース」(AELコース）を開設してきました。これを継承し、ジョイントディグリーを実現するとともに、新たな教育コースをつくり、教育研究の国際化を飛躍的にすすめたいと考えています。

第３に、「先端教育研究実践センター」（仮称）を設置して、アジアを中心にした研究機関、団体との国際的な連携の中で、「持続可能な社会のための教育研究」、「震災復興への教育心理学的支援研究」などの教育的課題に研究をとおして寄与することのできる拠点を整備します。

国立大学は、来年度から第３期の中期目標・中期計画の期間に移行します。これまで以上に、教育研究の厳しい評価にもとづいて予算等の再配分がなされることになります。教育学研究科・教育学部のこのような改革の取り組みに対して、今後とも協力と支援をお願いいたします。

恩師の思い出(1)

在学中の恩師との思いで

仙台支部長　**渡邊　宣隆**（39年入学）

昨年古希を迎えた。表題のテーマを頂いた事を機に今まで出会った方々を思い浮かべてみた。さいわいにも研究と修養の義務がある教師を46年間続けたお陰で多くの師と仰ぐ方々と出会った。理論や考え方、生き方等々、上司や先輩、同僚、友人等にご教導頂き現在の自分が在ると確認できた。素直に指導や助言等に耳を傾け納得したことはすぐ実践に移す意志を持つことは仕事や趣味の世界でもそして生きていく上でも大切な事であると改めて考えさせられた。

さて、表題の在学中の恩師と言えば卒論を指導頂いた古生物学の増田孝一郎先生である。先生には卒論の指導は勿論企業への就職や理学部大学院進学を勧めて頂くなど進路指導もして頂いた。卒業後も結婚式でご祝辞を頂くなど公私ともに大変お世話になった。先生との出会いは、教養部時代履修した地学の講座であった。高校で地学を学んでいない私にとって大講義室で受けた講義はとても印象的でした。それ以来先生の研究室に足を運ぶようになり、当然専攻は中学校理科（地学）で主に古生物学と地質学を中心に学んだ。『何もないということも非常に大事なことだ』という先生の詞を胸にフィールド調査に勤しんだ。一番の思い出は先生の化石採取のお手伝いをした後、苦労を共にした仲間と街中であんこう鍋をご馳走頂いた事である。雨中、ウイスキーをポケットにずぶ濡れになりながら郷六まで化石採取に行った事等を話の種にし、夢中になって料理に舌鼓を打ったことである。正に学習意欲より食い気が旺盛であった私らを先生は良く理解してくれていた証である。一昨年、近年ご無沙汰していた私には突然ともいえる訃報が届き、残念ながら先生と最後の別れをいたしました。今は　感謝　感謝　だけです。

恩師の思い出(2)

ボート遊びの効用

静田　　一（25年入学）

その先生のお名前は体育の海鉾先生とお呼びしてました。先生は美男子であったばかりでなく、すごいプロポーションで、我々は「ジョニイ・ワイズミューラー」の尊称を奉っておりました。

さて、教育の基本は「人を見て法を説け」と教えられておりましたが、海鉾先生を筆頭として、私ごときバカ者にもよく耳を傾け、一角の紳士として、大切に扱ってくださる先生方が沢山おられました。

初秋９月二学期初めての体育の授業、好天候のせいと休み明け最初のことでもあったのですが、時間になっても整列もせず、校庭で皆ブラブラしてダベッテおりました。突如、教官室から現われた先生は「何してるんだ、整列！！」と怒鳴るのでした。

皆慌てふためいて整列しました。先生は「草の上に行儀よく上を向いて寝ろ」　皆はノウノウと寝ましたが、トタンに今度は「両足を揃えて真上に上げる」と言われ、上げると、「静かに下ろせー」「ストップ」　皆、45度の角度で止めました。

「そのまま、そのまま動くなよ」と言われて教官室に戻って行かれました。皆は足を中途なところで止められて、５～10分くらいは何でもなかったのですが、30分40分ともなるとアチコチから唸り声が上がり、間もなくドタドタと足を地面に落としてしまうのでした。残ったのは、私ともう一人だけ。この日の後は、背筋腹筋を持った私は目をかけていただきました。私は小さい頃からボート漕ぎが大好きで、その成果が表れたのでした。この時履いていた靴は帝国陸軍払下げの軍靴で、左右双方で14kgもありました。

大学祭、仮装行列（昭和39年）

恩師の思い出（3）

「苗床」のダナドノ 竹内利美先生

池田　和夫（25年入学）

1955年７月、竹内利美教授の同行指導のもと、社会教育学教室の江馬助手と院生あわせて５名で七ヶ宿町横川の村落調査を計画し、実施した。初日は横川の先祖が昔住んでいた同町の稲子をたずねた。

稲子は藩の番所跡で、一行は関から湯の原行きのバスに乗り途中の峠田で下車、そこから杣道を歩き稲子へ向った。800米前後の高さの山道、コナラ・ブナ等の落葉の樹海。先生の声でステテコ姿で歩く。

休憩時には先生の小学校教員仲間とのアルプス登山、児童との高原観察、山林利用の知恵などを聞かされ、山は宝の山と教えられた。

幾つかの峠を越え、横川の旧跡をとぶらい、稲川に着いたら、すでに益をまわっていた。稲川ではオッキイエィの佐藤家――主人が分校主任――に宿りした。仙台から大学の先生方が来たというので、たちまち村人が押し寄せてきた。

涼しくなってから、佐藤先生の案内で稲子分校を訪ねた。児童達のそろのそろとついてきた。佐藤先生のワンルームスクールの稲子分校の、説明が終るや否や、竹内先生がオルガンをひきだした。児童達は初めは小さい声だったが、だんだん声を張り上げ歌いだした。５曲歌って最後に「夕焼け小焼け」で終った。瞬間シーンと静まりかえり感動が拡った。窓ガラスを通して夕焼けが美しく見えた。

その夜ふとんの中で、先生の今日一日の行為をふり返えり、教師という苗床をあずかる主人としての生き方に、大きな大きなヒントを得たことだった。いまは亡き竹内先生のご冥福をお祈りします。

恩師の思い出（4）

二つの声の記憶

佐々木一洋（26年入学）

（その一）私は1933年２月生まれで、終戦時は旧制朝鮮（現韓国）光州東中学校一年生。終戦は、入学５ヶ月目であった。通学困難な為、学校付設の寄宿舎に入っていたが、八月十五日は朝から空襲警報発令のため防空壕に入っていた。昼食終了とともに全員校庭集合がかかり四年生以下が校庭に整列した。

正面には腰にサーベルをつり下げた校長先生以下先生方が並んでいた。登壇した校長は、サーベルを握りしめ伏し目がちに涙声で「諸君、我が祖国はこの戦いに敗れた。諸君は直ちに荷物は持たず、急いで居住地（朝鮮）へ帰れ！本校は本日をもって閉校する。」緊張の一瞬、直ちに帰れ！短い切羽詰まった涙声の命令であった。外地朝鮮では、万一の際は我々が在留邦人を守るのだと言うことは厳しく言われていたのである。翌日から神社の焼き討ち破壊、略奪が韓国旗の小旗が飾られるなかで行われた。生徒達の安全を保証できない現場責任者としての決断の重みを、今噛みしめている。

（その二）もう一つの声は、教養部から後期課程への針路選択説明会での「堀江貞尚」教授の学科紹介の説明である。「この度、学部に科学科の並びで、教育心理学となかまの特殊教育学科ができることになった。子供のなかには障害を持った子供達がたくさんいる。適切な教員も足りないが何よりも障害を研究する研究者が少なすぎる。新設のこの学科は若い、有能な研究者を育てたいと切実に思っている。我こそは思う人は応募して欲しい。」

低音で、真剣に心から訴えかける教授の声が若かった私の心に響いた。そんなに必要ならばやってやろうじゃないかと若気の至りで私は志望したのである。盲聾二重障害児の発見と教育で名を残された堀江先生との出会いであった。

恩師の思い出(5)

思い出に残る先生方

小關　幸生（28年入学）

大学の恩師といわれて、すぐ思い出すのは、教養課程（北校舎）英語の黒川七郎先生である。1～2年次の担任で、毎回の面白い授業が印象的だった。小柄で頭にも、独特な迫力があった。

ご専門は英文学だったが、当時、珍しかったアカデミックな色彩の濃い英字新聞を学生時代から購読しておられ、それが大変ご自慢のようだった。

教官と学生、学生同士が仲良くなるには、コンパが良いと、よくコンパが開かれ、よく飲んだ。

野球も特段お好きだったが、日米両国の球団が仙台で試合をした折、予想通り、講義は休講となった。先生には卒業後も、大変、お世話になったものである。人間性の豊かな先生だった。

ドイツ語の高坂義之先生も、ユニークなお方であった。羽織袴で教壇に立たれたこともあり、板書はドイツ文字の古様な筆記体のため、判読がむずかしく、苦労した。高坂先生は、茶道もなされ、ドイツ留学が決まっていたが、ご病気のため、断念されたと聞いていた。

3年に進んでからは、生物学の杉原美徳先生の授業を受けた。小柄な方で熱心な授業が思い出される。日常的には、当時助手をしておられた武内伸夫先生から顕微鏡を使っての種々の実験を通し、詳細にわたる指導を受けた。武内先生は、のちに、附属小学校の校長を兼任なされた。

私は、学校教育学科（小学校課程）に在籍しており、生物に関心があり、当初、中高理科の免許をとるつもりでいたが、単位の関係で、急遽、中高社会の免許をとって卒業した。卒論等専門でお世話になった恩師は、平重道先生、大塚徳郎先生だった。

教育学関係では、学校管理の皇晃之先生や教育社会学の竹内利美先生等の授業も受けた。

楽しくも充実した4年間の学生生活であった。

恩師の思い出(6)

美専の先生たち

早坂　貞彦（31年入学）

まず、思い出されるのは、絵画・図案担当の「グーチャン」こと、大宮司正一先生である。話しぶりも愉快で、親しみのある先生であった。ただ、何十年も昔の古いノートを唾でめくりながら、講義をされるのには、いささか閉口した。

彫塑・陶芸ご担当の山西謙二先生は、年齢も若く、徹夜で陶器の窯焼きに付きあってくださりながら、美術や四方山話を親しく話してくださった。バイクを乗り回す、その姿は私たちの羨望の的だった。まもなく（昭和33年3月）、山形大学に移られた。

美専の主任教授・杉村 惇先生は、その高潔な画伯として、高邁な師として、我々は皆誇りとし、深く尊敬する先生だったが、学生誰にも広い愛をもって接してくださった。デッサンや油彩を教えていただいたが、学生の絵をけなすことはなく、「いいですよ、いいですよ」「この隅っこが面白い」との折々の励ましのお蔭で私たちに絵を描くことの楽しさを教えてくださった。

峰岸耐七郎先生は、図工科教育法、基礎デザイン、木工芸が担当で、特に私は入学迄全く美術経験がなく、劣等感にさいなまれていたのだが、木工室に入り浸ることにより、バウハウスや抽象造形に接することができ、構成による造形力を学び、造形構成としての木工芸を卒業制作に選べたことを感謝している。4人の先生方は勿論、同級生、先輩、後輩にも多くの教えを得た。あの学園の自由な雰囲気は懐かしく、得難い学びの場であった。

先生方と学生が一体となって、交歓する美専のコンパは最高だった。（写真右）

美専コンパ（昭和40年）

恩師の思い出(7)

平研究室と「宮城歴史教育研究会」

小島　信弥（31年入学）

大学時代の思い出は、現在につながる川内での昭和33・34年度の楽しく充実した2年間である。日本史専攻の平研究室（平重道教授・大塚徳郎助教授）は独立した二階建米軍将校宿舎を活用したものであった。一階は5部屋ほどあって、2部屋は平・大塚先生の個室、他部屋は演習室になったり学生の溜まり場になったりした。水洗トイレに出会ったのはここが最初であった。謹厳な大塚先生が水洗トイレの利用法を身振り手振りで教えてくれた光景も今は懐かしくほほえましい。

研究室の楽しみは恒例の、「巡検」と「卒論合宿」である。私たちの巡検は京都・奈良の古刹であった。文部省の特別許可を得ての視察であるから国宝級の仏像や古文書・寺宝等に直接触れることができる至福の研修であった。苔寺における茶室での一服、延暦寺・石山寺等の戦略的役割等の熱の入った平節が今も鮮やかによみがえる。

卒論合宿は、主題設定・研究経過・まとめに至るまで数回実施された。市内旅館や鳴子温泉において酒付きで行われた。我々は、酒と緊張で発表も滞りがちであったが、酒豪の両先生は酒が進むに従いますます厳しく指摘し、学生いじりを楽しんでいる風であった。

今は恩師もお亡くなりになったが、先生の遺産は「宮城歴史教育研究会」と発展し脈脈と生きている。これは平・大塚教室卒業生を中心とした研究会であり、最初は東北大学教育学部歴史研究会と称し、両先生が宮城教育大学に移ってから宮城教育大学歴史研究会となり、大塚先生が学長退任をなさったのを機に現在の名称となった。

1969年に機関誌「宮城史学」を創刊し本年は第34号を発刊した。現在に至るまで毎年巡検を実施している。これら今につながる諸活動の原点が学生時代にあったことを有難く感謝している。

恩師の思い出(8)

教養課程での恩師二人

太田　將勝（39年入学）

教養部時代の先生お二人について、お話させていただく。当時、私は低血圧で朝起きができず、午前中に組まれた試験は計画的に欠席し、数週間後の午後実施される追試で単位をいただくことにしていた。

岩元不二雄先生の英語も川内の教官研究室で紅茶をご馳走になりながら、受けた。テキストは、ロレンスの「ザ・フォクス」だったが、ロレンスの翻訳で世を騒がせた、伊藤整に似た風貌の優しい先生が、後年ラテン語の研究では著名な方と知り、びっくりした。追試の結果は、Cであった。

やはり英語の横沢四郎先生は、小躯でお顔は昆虫に似ていた。鼈甲の橙色のフレーム（眼鏡）に、派手なチェックのシャツ。黄色の自転車で構内を走りまわるお姿は異様であった。授業に出る気もなかったが、単位だけは追試で頂戴した。勿論、評価は、Cであった。

後に、先生と偶然接点が生じ、英語だけでなく、該博な知識・見識の高さと人柄のすばらしさを見直し、私淑するまでに到った。東京の旧制麻布中学の英語教師時代の先生の教え子、なだ・いなだ、北杜夫などは、こぞってエッセーの中に、先生の思い出を、懐かしそうに綴っている。

先生方の人格にふれ得たことは、望外の幸せである。

佐々木健二郎氏(32年入学、美専)のアメリカ留学を祝賀する壮行の会。先生方と同窓生、在学生が集まり、門出を祝った。(写真右)

同窓生の留学壮行会(昭和41年)

阿部和夫先生の「東日本大震災を記憶するドキュメンタリー映画の製作 ――復興に向けての文化活動として――」の講演を聴いて

軍司　　啓（39年入学）

平成26年度の仙台支部の役員会で、総会時の講演会の講師について話し合った折、会員である阿部和夫先生が、映画「宮城からの報告　－こども・学校・地域－」の製作に取り組んでいらっしゃるので、そのことをお話しいただいたらよいのではとの提案がありました。多くの方々の賛同が得られ、先生にお願いしたところ快くお引き受け頂きました。

そして、「東日本大震災を記録するドキュメンタリー映画の製作　－復興に向けての文化活動として－」の演題でご講演いただきました。

日程の都合で、１時間余りという短時間の中で、なぜ、映画製作に取り組んだのかをはじめ、撮影に入るまでの準備のご苦労や、石巻市立門脇小学校とその学区に含まれる門脇町・南浜町地区とするまでの過程、青池監督の撮影を始めるまでの準備の様子などを具体的にお話しいただきました。私も大震災後折立地区の避難所運営にかかわっていましたので、これをどのように後世に伝えるのか、災害時に即対応できる体制づくり等多くの課題を抱えていた時だけに直接心に残ることが数多くありました。

特に、貞観の地震津波について「石巻の歴史第４巻」で、先生が担当した災害史の中で、触れていたにもかかわらず、それがまた起こり得る、可能性があるという視点は、殆ど持っていなかったとの後悔の念があったことや過去の大災害が現在に伝承されていないことなどから、「歴史に残るこの大災害をどのように記録し、どう未来に伝え、どのようにして後世に残すかが重要だと考えた」とお話しいただきました。

また、撮影にあたっての約束。一つは、教員、子どもに対して「やらせ」をさせない。二つ目は、嫌だと言うものを無理強いしない。これは対象になった一人一人を大切にしていることだということと心に残りました。

そして、お話しいただいた中で、本当にうれしかったことは、歴史に残る大災害で、門脇小学校は、地震・津波・火災と三重の災害を蒙ったにもかかわらず鈴木洋子校長と教職員が、児童224名全員の命を守り通した事実を映像で残したことです。こども・学校・地域が、復興に向けてどう行動したかを記録し、保存し、次世代に継承し、この映画を被災地からのメッセージとして、国内は勿論、海外に向けて発信していきたいとの思いです。

かつて教員として、こどもの命と安全を守ることの大切さを教えられてきましたが、こうした大災害の時、私にも的確に判断し行動できたのだろうか振り返らせていただいた貴重な時間でした。

被災した門脇小学校（平成23年６月12日撮影）

平成23年（2011）３月11日に発生した東日本大震災で被災した石巻市立門脇小学校の教職員・児童全員（一旦下校して戻ってきた生徒を含めると275名）の命が救われたという事実は、種々のメデイアを通して、日本全国、海外にまで報道された。教職員や地域住民の防災に係る日頃の意識の高さとこれを反映した避難訓練等具体的措置が、ここに功を奏したと注目され、評価された。

平成26年度　仙台支部事業報告

第１回支部役員会 26年５月６日(土) 会場　文系総合研究棟 時間　午前10時～	報告事項	①平成25年度仙台支部事業報告・会計決算報告及び承認について ②平成26年度仙台支部事業計画案並びに会計予算案について ③平成26年度仙台支部第34回総会・講演会・懇親会原案等について ④「会報第18号」発行構想原案について ⑤役員・年度理事改選並びに後補充について ⑥その他
顧問会・監査会 26年４月18日(金)	協議事項	平成26年度第35回支部総会時講師の依頼について　②仙台支部の今後について　③会員増について　④その他　監査会も同時開催
第２回支部役員会 26年８月23日(土) 会場　文系総合研究棟 時間　午前10時～	協議事項	平成26年度仙台支部第35回総会運営について ①平成26年度講演会講師・演題の確認 ②平成26年度第35回総会・講演会・懇親会の役割分担について ③第３回支部役員会における理事の役割分担 ④その他「会報18号発行」・総会案内状発送事務協力依頼
第35回仙台支部総会 26年11月３日(日) 会場ホテルＪＡＬシティ仙台	総　会 講演会 懇親会	講師 阿部和夫氏(33年度入学)・演題「東日本大震災を記録するドキュメンタリー映画の製作」 講師が会員だった関係で参加者多数
第３回支部役員会 27年１月11日(日) 会場ホテルＪＡＬシティ仙台	内　容	①第35回支部総会の反省及び会計報告 ②平成26年度事業及び会計中間報告 ③平成27年度役員会・総会日程等協議

平成27年３月31日

平成26年度 東北大学教育学部同窓会仙台支部 会計決算報告

Ⅰ　一般会計

1．収入の部

(△ 予算額との比較減 単位:円)

	本年度予算額	本年度決算額	比　較	備　考
会費	350,000	368,510	18,510	延べ350人
繰越金	471,085	471,085	0	
雑収入	215	22,128	21,913	総会ご祝儀・利子等
合計	821,300	861,723	40,423	

2．支出の部

(△ 予算額との比較減 単位:円)

		本年度予算額	本年度決算額	比　較	備　考
事務局費		126,000	82,113	△ 43,887	
	印刷費	80,000	43,800	△ 36,200	封筒、葉書等印刷
	消耗品費	15,000	12,067	△ 2,933	用紙、インク等
	備品費	3,000	0	△ 3,000	文具類
	事務手当	25,000	25,000	0	5,000×5人
	雑費	3,000	1,246	△ 1,754	送金料、印字代
会費振込手数料費		33,000	17,280	△ 15,720	会費振込手数料
会議費		50,000	50,079	79	役員会他
通信連絡費		130,000	82,792	△ 47,208	総会案内等
会報費		85,000	73,720	△ 11,280	
	印刷費	75,000	63,720	△ 11,280	会報印刷代
	会議費	10,000	10,000	0	会報発行委員会会議
総会費		60,000	35,000	△ 25,000	
	会場費	20,000	0	△ 20,000	会場使用料
	表示関係費	5,000	5,000	0	演題、看板等
	装飾費	5,000	0	△ 5,000	
	講演会費	30,000	30,000	0	講師謝礼、車代
慶弔費		10,000	0	△ 10,000	弔電
雑費		10,000	11,108	1,108	
予備費		217,300	158,590	△ 58,710	旅費、手土産等
運用基金		100,000	100,000	0	
合計		821,300	510,682	△ 310,618	

※収入総額861,723円－支出総額510,682円＝残高351,041円は(次年度へ繰り越します)

Ⅱ．運用基金

収入800,000円＋収入100,000円－支出０円＝差引残高900,000円(次年度へ繰り越します)

会　計　監　査

平成26年度東北大学教育学部同窓会仙台支部の会計決算にあたり、通帳・会計出納簿・領収証を点検したところ、整備が完全でありますことを報告いたします。

平成27年３月31日

監事　笹田博通 ㊞
監事　吉野信武 ㊞

平成27年度　仙台支部事業計画

顧　問　会
27年４月17日(金)
会場
東北大学文系総合研究棟

○平成27年度第35回総会時の講師の依頼について
○仙台支部の今後について
○会員増等について
○その他

第１回支部役員会　　報告事項
27年５月９日(土)　　協議事項
会場
東北大学文系総合研究棟
10時00分～12時00分

平成26年度仙台支部事業報告・会計決算報告について
①平成26年度仙台支部事業報告並びに会計決算報告の承認について
②平成27年度仙台支部事業計画案並びに会計予算案について
③平成27年度仙台支部第36回総会・講演会・懇親会原案等について
④「会報第19号」発行構想原案について
⑤役員・年度理事改選並びに後補充について
⑥その他

第２回支部役員会　　協議事項
27年８月22日(土)
会場
東北大学文系総合研究棟
10時00分～12時00分

平成27年度仙台支部仙台支部36回総会運営について
①平成27年度記念講演講師・演題の確認
②平成27年度第36回総会・講演会・懇親会の役割分担について
③平成27年度仙台支部第３回役員会日程等について
その他「会報19号発行」　総会案内状発送事務協力依頼

第36回仙台支部総会　　総　会
27年11月15日(月)　　講演会
会場ホテルＪＡＬシティ仙台　　懇親会

講師 細川徹先生(元東北大学大学院教育学研究科長・教育学部長 演題(未定)

第３回支部役員会　　内　容
28年１月16日(土)
会場ホテルＪＡＬシティ仙台
17時00分

①第36回支部総会の反省及び会計報告
②平成27年度事業及び会計中間報告
③平成28年度総会日程等協議

平成27年度 東北大学教育学部同窓会仙台支部 会計予算

Ⅰ　一般会計

1．収入の部

(△ 前年度比較減 単位:円)

	前年度予算額	本年度予算額	比較	備考
会費	350,000	350,000	0	350人
繰越金	471,085	351,041	△ 120,044	
雑収入	215	259	44	利子等
合計	821,300	701,300	△ 120,000	

2．支出の部

(△ 前年度比較減 単位:円)

		前年度予算額	本年度予算額	比較	備考
事務局費		126,000	106,000	△ 20,000	
	印刷費	80,000	60,000	△ 20,000	資料、葉書等印刷
	消耗品費	15,000	15,000	0	用紙、インク等
	備品費	3,000	3,000	0	文具類
	事務手当	25,000	25,000	0	5,000円×5人
	雑費	3,000	3,000	0	送金料、印字代
会費振込手数料費		33,000	25,000	△ 8,000	会費振込手数料
会議費		50,000	50,000	0	役員会他
通信連絡費		130,000	110,000	△ 20,000	総会案内他
会報費		85,000	75,000	△ 10,000	
	印刷費	75,000	65,000	△ 10,000	会報印刷代
	会議費	10,000	10,000	0	会報委員会
総会費		60,000	60,000	0	
	会場費	20,000	20,000	0	会場使用料
	表示関係費	5,000	5,000	0	演題、看板代
	装飾費	5,000	5,000	0	
	講演会費	30,000	30,000	0	講師謝礼、車代
慶弔費		10,000	10,000	0	弔電他
雑費		10,000	12,000	2,000	手土産代他
予備費		217,300	153,300	△ 64,000	旅費他
運用基金		100,000	100,000	0	
合計		821,300	701,300	△ 120,000	

Ⅱ　運用基金

1．収入の部

	前年度予算額	本年度予算額	比較	備考
繰越金	800,000	900,000	100,000	
一般会計より	100,000	100,000	0	
雑収入	0	0	0	
合計	900,000	1,000,000	100,000	(ゆうちょ銀行定期預金)

※定期で積んでいるため、利息は、解約する時に発生する。そのため、雑収入は計上しない。

2．支出の部

現在支出の予定はない。支出は現時点では０円。

※　一般会計からの額は、その年の決算残額によって変わる。

平成27年度 総会のご案内

平成27年度の東北大学教育学部同窓会仙台支部の総会を下記の通り行います。皆様お誘い合わせの上、ご参加ください。

記

1．日　時　平成27年11月15日(日) 午後1時

2．会　場　ホテルJALシティ仙台　2階

3．日　程

午後1時～　　総　会

午後1時50分～3時　講演会

講演会終了次第　　懇親会

・会費（5,000円）

・当日お納め下さい。

4．お願い　同封の返信用葉書にて参加のお申し込みをお願いします。

11月5日(木)までにご投函下さい。

5．講師プロフィール

細川徹先生(元東北大学大学院教育学研究科長)

昭24.9　岩手県盛岡市にうまれる

47.3　東北大学文学部哲学科心理学専攻卒業

50.3　〃　大学院文学研究科修士課程（心理学専攻）修了

50.4　〃　医学部助手（附属温泉医学研究施設リハビリテーション医学部門）

57.2　医学博士（東北大学、医第1390号）

61.5　東北大学医学部講師(附属リハビリテーション医学研究施設障害学部門)

63.4　東北大学医療技術短期大学部助教授

平 6.4　東北大学教育学部助教授（知能障害学講座）

10.4　東北大学教育学部教授（人間発達臨床科学講座・発達臨床論分野）

東北大学学際科学研究センター教授兼務

12.4　東北大学大学院教育学研究科教授（人間発達臨床科学講座・発達障害学分野）

14.4　〃　評議員（平16.3まで）

平19.4　東北大学大学院教育学研究科研究科長

教育学部学部長（平21.3まで）

27.3　定年退職

※　講演会の演題については、未定ですが、先生の専門分野のお話が聴けると思います。ご期待下さい。

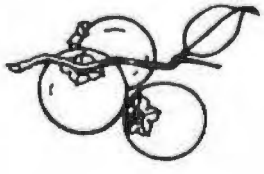
《会費納入のお願い》

平成27年度分の会費納入のお願いです。現在会報等発送をお願いしている業者のメール便に対する規制が変わり、総会案内や会費納入のお願い等の文書を同封できないことになってしまい、会報の内容として組み入れなくてはならないことになりました。会員の皆様の会費納入方法は変わりません。同封の振り込み用紙をお使いいただき会費をご納入ください。

なお、総会・講演会・懇親会参加の際にご納入いただきますと手数料が不要となり事務局の財務上、好都合です。

お詫び

平成26年度の会費納入を依頼した際に、本来なら手数料のかからない赤で印字された振込用紙を送るべきところ、一部の方々に青字で印刷された手数料の必要な振込用紙を送ってしまいました、大変ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。



教育学部同窓会事務局だより

本部同窓会事務局長　神谷　哲司（H２年入学）

平成27年度の同窓会の事業と致しまして、例年通り、（１）卒業・修了学生の祝賀会援助事業、（２）現役学生への海外学会発表渡航費援助事業、（３）仙台支部寄附金による博士論文執筆援助事業を進めてまいります。さらに、今年はこれらに加え、会員の親睦をはかる事業として新しく「OB・OG懇談会」と「キャリア支援セミナー」を企画しました。また、昨年の会報でお知らせいたしました通り、同窓会名簿の整理を行うための事業も開始しております。

OB・OG懇談会は、６月27日（土）に開催された平成２年度入学生の同期会、ならびに９月５日（土）に開催された平成６年度入学生の同期会に合わせ、現役の教育学部生とOB・OGとの交流を深めることを目的として開催されました。特に、複数のOB・OGがそれぞれ卒業のどのようなライフコースを辿り、どのようなライフキャリアを積み重ねてきたのか、卒業して20年を経た先輩たちから話を伺うという形式で進められました。６月の懇談会参加者の声が、この会報の11ページに掲載されていますのでそちらもご覧ください。

こうした世代を超えた交流の動向を踏まえ、同窓会事務局では、今後同期会などを企画されているみなさまに対しまして、現役学生との懇談会の場を設けるお手伝いをしたいと考えております。ご希望する同期会幹事の方は、同窓会事務局（sed-alumni@sed.tohoku.ac.jp）までご相談ください。

また、現役学生に対する同窓会活動への周知を目的し、今年度より「キャリア支援セミナー」を開催することといたしました。国際化・流動化の進む社会情勢の中、就職活動は一昔前とは大きく異なっており、現役学生からも戸惑いの声が聞かれています。そうした中、現役学生がより自分にとってよりよい進路選択をできるよう、９月30日の後期授業のオリエンテーションの日に、「進路選択いろはのい！」と題しまして、本学の高度教養教育・学生支援機構キャリア開発室室長の猪股歳之准教授にお話しいただくことになりました。猪股先生ご自身も教育学部・教育学研究科のご出身ということで（平成２年入学）、これもまた、教育学部の先輩から現役学生へのエールとして届くことを祈念してやみません。

また、同窓会としての懸案事項でございました、名簿の整理に関しまして、教育学同窓会ウェブページで、名簿の登録を開始いたしました（http://www.sed.tohoku.ac.jp/alumni.html）。名簿の取扱いに関しましては、東北大学教育学部同窓会名簿取扱い規約に基づいて、個人情報保護などにも配慮して行われますので、多くのみなさまのご登録をお願いいたしたく存じます。なお、現在のところ、登録いただきました同窓会の名簿を冊子として製本・頒布する予定はございません。また、会員のみなさまからの、ご友人・知人と連絡を取りたいとの問い合わせに関しましても、事務局といたしましては、お問い合わせいただきました方の連絡先を控え、お探している方へ直接事務局より、「問い合わせが来ている旨お伝えし、連絡先をお教えする」という手順を踏んでおります。この点、よろしくご理解いただけますと幸いです。

このように少しずつではありますが、同窓会としてみなさまの相互交流のお手伝いができればと考えております。人的資本にきわめて乏しい事務局ではありますが、今後とも引き続きみなさまのご厚意とご助力によって、教育学部のさらなる発展に寄与できるよう、鋭意努力を続けてまいる所存です。なにとぞ、今後ともご高配賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

OB・OG懇談会が開催されました

本部同窓会事務局

平成27年度の本部同窓会「会員の親睦をはかる事業」として、「OB・OG懇談会」を開催いたしました。今年度は、同期会が開催される日程に合わせ、6月27日に第1回が、9月5日に第2回が開催されました。ここでは、第1回に参加したOBならびに現役学生に当日の様子をご報告いただきます。

鈴木昭博（平成2年入学）

平成2年入学の同期会は、遠方では台湾からの参加を含め、総勢24名にて6月27日に開催されました。大学構内が大きく変貌したこともあり、同期が久しぶりに集う機会にと、同期である神谷さんにキャンパス案内をお願いしたところ、あわせて今回OB・OG懇談会のお誘いを受け参加した次第でした。

懇談会には我々同期十数名が参加し、前半に簡単な自己紹介を行い、後半には3グループに分かれて車座で懇談を行いました。参加した同期は会社員から専業主婦まで現在の立場も様々であり、またこれまでの経験もそれぞれであることから、多岐に渡る意見交換ができたと思います。

私のグループでは学生より社会に出た時の英語の重要性について問われ、私の会社を事例に、英語はコミュニケーションとして必須アイテムであることを説明しました。また同席された先輩からは、現在議論されている文系学部の存在意義が問われている現状を踏まえ、学生時代の経験が卒業後のこれまでの人生にどのように影響してきたかを振り返る場面もありました。

日常で20代の学生とこのような話をする機会もないことから、当時の自分を思い出すとともに、今の自分を見つめ直す貴重な時間だったと思います。学生だけでなく、OB・OGである我々にとっても良いことだと思いますので、継続して実施いただきたいと思います。

名和彩夏（平成25年入学）

OB・OGの方々に学部生・院生時代について、現職について、卒業後の海外経験、大学での学びの意味、学生へのアドバイスなどをお話ししていただきました。

私たちが進路を選択する際、様々な業界や社会の様子を知っていることが必要です。しかし、現在の学校生活ではなかなか社会人の方とお話しする機会が無く、少ない選択肢の中から進路を選択しなければいけません。将来の自分の姿を思い描くことが難しいです。今回は、様々な分野で活躍されている先輩方に、社会人として、また、東北大学教育学部の直々の先輩として、貴重なお話をしていただき、自分の将来について考える良い機会になりました。また、将来の選択肢を増やすことができたと思います。新しいつながりを得るきっかけにもなり、大変有意義な時間を過ごすことができました。

私もちょうど、卒業後の進路に悩んでいます。先輩方のお話を聞くことで、将来に可能性を感じることができました。今は自分の将来に少しわくわくしているところです。今回お世話になったみなさん、ありがとうございました。

OB・OG懇談会（平成27年6月27日）

仙台支部役員名簿

（平成25.11.17～平成27総会時）

顧　問	25	髙橋　公正	26	佐々木一洋
	28	永野　昌一	31	雪江　美久
	36	岡崎　忠	36	阿部　琢也
	37	關口　隆	大学	髙橋　満
支部長	39	渡邉　宣隆		
副支部長	39	軍司　啓	50	吉川　邦彦
参　与	24	岩淵昌次郎	24	富塚　英雄
〃	29	石森　幸子	31	枡澤　怜
〃	32	佐々木亀三郎	33	佐藤　健仁
〃	35	伊藤　昭	39	大浪　榮一
〃	元学部長	菅井　邦明	元学部長	菊池　武剋
〃	元学部長	荒井　克弘	元学部長	細川　徹
〃	元学部長	宮腰　英一	元学部長	本郷　一夫
理　事	24	佐藤　弘		
〃	25	髙橋　公正	25	静田　一
〃	26	池田　和夫	26	三浦　貞昌
〃	27	青木　敏浩	27	阿辺　博亮
〃	28	小關　幸生	28	桂島　新一
〃	29	市川　宏	29	佐藤庸太郎
〃	30	千葉　俊雄		
〃	31	今野　健	31	福井　正子
〃	32	煤田　泰蔵	32	村上　重作
〃	32	竹澤錬太郎		
〃	33	金岡　昭房	33	山形美也子
〃	34	工藤　忠久		
〃	35	泉　豊	35	岡本　幸子
〃	36	小野　惇夫		
〃	37	賀屋　義郎	37	中川　典雄
〃	38	文屋　優	38	文屋　國昭
〃	39	朴澤　徳昭	39	太田　將勝
〃	40	吉野　信武		
〃	41	安住　裕	48	櫻田　博
〃	50	別府　成裕		
〃	51	日下　毅	51	佐藤　邦宏
〃	52	白澤　利広	54	南城　一之
〃	57	川上　芳夫	H 4	吉植　庄栄
監　事	40	吉野　信武	大学	青木　栄一
大学理事		後藤　武俊		

事務局・各委員会

事　務　局

事務局長	39	軍司　啓		
事務局補佐	37	關口　隆		

会則検討委員会

委員長	31	枡澤　怜		
副委員長	31	今野　健		
委　員	25	静田　一	28	桂島　新一

名簿作成委員会

委員長	33	金岡　昭房		
副委員長	35	泉　豊		
委　員	25	髙橋　公正		

会報発行委員会

委員長	39	太田　將勝		
副委員長	31	福井　正子		
委　員	38	文屋　優	39	軍司　啓

会計委員会

委員長	29	石森　幸子		
副委員長	39	朴澤　徳昭		
委　員	35	岡本　幸子	37	佐藤　勝子

後　記

○会報第19号をお届けいたします。ご多用のなか、ご寄稿・ご協力いただきました方々には、衷心より、感謝申し上げます。

◎総会にご出席の際は、この会報をご持参いただきますようお願いいたします。

（会報発行委員会）

事務局

〒982-0262 仙台市青葉区西花苑２－７－18

軍司　啓　TEL 070-5322-3322